

校内現職通信

第1号 R元.10.21発行
文責 勿来一中現職担当
(滝澤)

令和元年度 勿来一中現職研究テーマ

主 題：確かな学力を身につけた生徒を育成するための学習指導のあり方

副主題：思考力・判断力・表現力を育むための指導方法の工夫

(仮説)

- ①基礎・基本的な知識及び、技能の習得を図る学習指導の展開
- ②基礎・基本を活用して、思考力・判断力・表現力を試す場を設定したり、言語活動を実現したりする場を設定し、指導方法を工夫する。

先週の各先生方の授業実践より・・・

保健体育科：山田先生（1-3）・・・10/16（水）①

<授業の一コマ①>

マット運動の発表前の練習時・・・I君（Y君の練習を見て）「先生が足、こうするように言ってたよ」
Y君「どう？こう・・・？」（足の動きを自ら確認）

※ ごく自然な、生徒同士のアドバイスの姿ですが、このような対話（言語活動？）が増えてくると自分の得た知識をより深く、確認することができ、定着が図られると感じました。

<授業の一コマ②>

一人一人の連続技発表時・・・同じグループ内の生徒同士、良かったところ・感想を一生懸命メモをとる姿が見られました。

※ メモを演技生徒に返してあげることにより、級友の新たな一面に気づき、自己有用感（自己肯定感？）を高めることができるのかなあと感じました。



社会科：國井先生（2-1）・・・10/16（水）③

<基礎・基本の定着>

前時までの学習内容を全員がしっかりとノートにまとめ、スムーズに九州地方の農産物を発言していました。（導入時）

※ 日頃からのノート指導は、基礎・基本の定着や、その先の活用力を高めるために、とても大切であると改めて実感させられました。

<実態に応じた課題設定>

指導案にあった課題2の方が生徒には分かりやすかったのか、生徒の思考が先生の意図と異なった方向に進んでしまいました。しかし、活動を中断させ、発問を変えることにより、生徒が明確に課題解決できるようになっていきました。

※ 机間支援により、生徒の思考の過程を正しく見取り、臨機応変に対応し、生徒の思考の方向性を定めてあげる補助発問を多く準備しておくことは大切だと思いました。



技術・家庭科：小野昌久先生（1-3）・・・10/17（木）③

<参観された先生方より> →今までの授業研究で一番多くの先生方に参観して頂いたので・・・

- のこぎりの使い方について、生徒の実態に合わせた、安全第一の分かりやすい説明でした。
 - のこぎりのしくみを自分で実物と見比べながら特徴をつかみ、全員が話を集中して聞く姿がみられていました。
 - 図やデモンストレーションなど、技能教科ならではの工夫があり、生徒の反応も良かったです。
- ※ 基礎・基本を定着させるためには、教師の話し方やどう説明するかをじっくりと吟味し、生徒を飽きさせない仕掛けを授業に盛り込む必要があると感じました。



3名の先生方、参観して頂いた先生方、ありがとうございました！

★これから研究授業される先生方、指導案作成よろしくお祈いします★